

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 20 日作成)

委員会名	積雪荷重小委員会	主 査 名：城 攻
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：石山祐二
設 置 期 間	2001 年 4 月 ～ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	現行「建築物荷重指針・同解説」の「雪荷重」について解説文の改訂作業を行う。 また、建築基準法の改正による各行政庁指定の設計用積雪深値の収集および諸外国の設計用積雪荷重評価法の最近動向を調査する。さらに、WGの成果を指針に反映させる。	
委員構成 (委員名(所属))	和泉正哲(清水建設)、岡田恒(建築研究所)、小板橋裕一(日建設)、桜井修次(北海学園大)、城 攻(北海道大)、須田健一(都市未来建築コンサル)、高橋徹(千葉大)、苫米地司(北海道工業大)、中村勉(岩手大)、前田博司(福井大)、三橋博三(東北大)、三橋博巳(日本大)、山田利行(山田研究室)	
設置 WG (WG 名：目的)	制御積雪荷重WG：指針で導入した建築物の屋根上積雪を積極的に制御して重量低減を行う場合に対応した積雪荷重を適正に評価する方法を検討する。 屋根形状係数WG：荷重指針で用いる屋根形状による積雪分布の差異を特定するために、降雪風洞実験による屋根形状係数の評価方法を確立する。	
2004 年度予算	300,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第1回：2004 年 4 月 26 日(10 人)、第2回：7 月 15 日(5 人)、第3回：8 月 29 日(5 人)、第4回：12 月 20 日(7 人)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>前年度までに作成した5章/雪荷重指針の本文・解説文・付録資料についてより正確な表現に改め、他の章との表記上の整合性を行った。</li> <li>建築物荷重指針講習会の運営を分担し、全会場の講師派遣に協力した。</li> <li>今後の新しい研究展開の方向について検討し、次年度計画を行った。</li> <li>制御積雪荷重WGでは、(1)基礎資料の収集：①屋根雪処理方法の種類および分類と制御装置に関する資料を収集した。(2)制御方法および制御装置の性能評価：①雪下ろし等による制御雪荷重、②制御装置の性能評価、③制御方法に応じた増分積雪深の評価日数nについて検討した。</li> <li>屋根形状係数WGでは、降雪風洞実験による屋根形状推定手法の方向性について検討を行い、①数種類の模型雪を用いた降雪風洞実験による定性的な積雪分布、②降雪風洞実験により、模型雪の特性を考慮した実験条件の設定(特に風の乱れ強さの設定)の重要性、等の結果を得た。</li> </ol> <p>いずれも雪荷重評価に価値のある成果を得たが、HPは開設準備中である。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>雪荷重指針の5章本文および解説文ならびに付録資料の刊行原稿では、おおむね当所の予定に従った成果が得られたものと判断している。</li> <li>各行政庁指定の設計用積雪深値の収集および諸外国の設計用積雪荷重評価法に関する最近動向調査については不十分であり、次年度に継続して行う。</li> <li>2つのWGでは、屋根雪処理方法に関する基礎資料の収集は出来たが、これに基づく制御装置の性能評価等は不十分である。また、6つの研究機関で吹雪風洞実験を行い実験条件の設定法について検討したが、今後は、これらの成果を基に、具体的な実験条件の標準化に向けた検討が課題である。</li> </ol>
その他評価すべき事項	特にはない